

東建が女子学生向け見学会・交流会

東京建設業協会（今井雅則会長）は2月28日、建築に関心がある女子学生を対象にした「建築現場見学会&女性若手技術者との勉強会」を開いた。12人が参加した。建築系女子学生に人気が高い職種・部門は「設計」だが、女性技術者としてゼネコンの現場で「施工管理」を行っている女性監督と、仕事やプライベート、ライフプランについての率直な意見交換を通じて、「施工管理」「ゼネコン」「中小企業」などのキーワードに関心を持ってもらうことが狙い。2019年から始め、この間、コロナ禍で中断していたが再開した。

午前と午後に見学したのは、都営住宅新築工事（施工・第一ヒューテック）と、新築の賃貸共同住宅（施工・日本建設）の2現場。午前の都営住宅の現場事務所では第一ヒューテック入社2



現場見学会



女性技術者を交え意見交換

施工管理の魅力に気づいて

設計志望でも現場経験を

年目のリ・イーリンさんが、午後には日本建設入社6年目の現場で次席を務める梅木栞奈さんが、それぞれ現場見学の案内役を務めた。

また昼食後には、リさんと梅木さんに加え、日本建設入社10年目で、施工管理を経験後に育児休業を2年取得、昨年4月から時短勤務で意匠設計に復職した黒木優さんの女性技術者3人を交えて意見交換した。

先輩女性技術者からは「企業規模が中小だと若手でも主体的に携われる

し、大手とのJV案件で多様な経験もできる」「所長になって後輩のモデルになりたい」など、建設業の施工管理も女性技術者の選択肢になり得ることを強調した。

午後の現場見学後に合流した日本建設の田和英夫社長は女子学生に対し、「職業・企業への選択にはさまざまあると思うが、とにかく最初の3年程度現場を経験すれば、見えてくる風景がある」と、設計志望であっても現場経験の重要性を訴えた。